



宮田村と森のライフスタイル研

森林の里親協定締結

NPO法人森のライフスタイル研究所(東京)は26日、「森林の里親協定」を宮田村と結んだ。同研究所は、同村有林の整備や森林づくりの交流活動を人的・資金的に支援していく。村役場で開いた調印式には、同研究所の竹垣英信代表理事所長と清水靖夫村長、立会人として青木一男県上伊那地方事務所長が出席。3者で協定書に調印した。

対象となる村有林は、同村新田南平地籍の約96畝。同研究所が間伐などの整備作業を支援し、森林づくりの交流活動も展開する。同村で8月1日に開く「上伊那地域緑の少



協定を結んだ森のライフスタイル研究所の竹垣所長(右)と清水宮田村長、立会人の青木県上伊那地方事務所長

年団交流会」では、後援団体として物品などを提供する

ことが決まっているが、これ以後の具体的な事業は村と協議して決める。契約期間は1年間。

活動費用は日本コカ・コーラが実施する「いろはす地元の水応援プロジェクト」

や、スイスの水筒(アルミボトル)メーカー「SIGG」などからの補助金を充てる。

竹垣代表理事は「我々ができるのは人と森をつなげていくという一点に尽きる。森には欠かせない水を含めて、保護・育成や啓発に取り組みたい」と意欲を見せた。清水村長は「森林整備はなかなか進まないだけに、この機会に森の持つ機能が高められる整備が進めば」と期待を込めた。

(原かおる)

森林の里親 県の「森林の里親促進事業」として2003年からスタート。森林整備に意欲のある地域と社会貢献に意欲のある企業・団体が連携して森林づくりに取り組む協定。今回の締結は県内で80件目、上伊那地方では8件目になる。